

第1回通学路の更なる安全対策検討会（R4.4.27開催分） 会議録要旨

本検討会の趣旨として、松雄副市長による開会あいさつの中で、瑞穂区田辺通6交差点への更なる安全対策について検討し、本市の通学路の各種対策に必要な視点を加え、総合的に展開することを目的とすることが表明された。

検討会には関係機関との連携が必要不可欠なことから国土交通省中部地方整備局、愛知県警察がオブザーバーとして参加されたほか、交通工学がご専門の名古屋大学大学院教授、中村英樹先生もオブザーバーとして参加された。

愛知県警察からは、瑞穂区田辺6交差点での事故概要のほか、名古屋市内の交通事故の発生状況や統計データ等について、また、通学路の安全対策について防犯上の観点から、つきまとい事例等の説明があり、これらを踏まえ、検討会に対する期待や必要な観点として、別表のご意見を頂いた。

国土交通省中部地方整備局からは、自治体視点としてETC2.0プローブデータの解析データ提供や補助金活用への助言を頂けることとなった。

また、名古屋大学中村教授は、「どんな交通安全対策でも、オールマイティーな対策があるわけではなく、それぞれの箇所、道路や交通の特性に応じた最善のものを、コストを節約しながら効果的に導入するかが問われている。」とし、技術的な観点からの検討会へアドバイスを頂けることとなった。

検討会の中で、スポーツ市民局、教育委員会、緑政土木局からこれまでの通学路における安全対策の取組が報告され、本検討会として安全対策を更に一步進めるために、ハード面、ソフト面それぞれの検討項目として、①交差点の対策、②教育、広報啓発関連、③子ども目線の通学路対策、④地域が子どもを守る安全対策、⑤車両等に関する最新技術の適用、の5項目が事務局より提案され了承された。

併せて、今後の検討組織について、有識者懇談会の開催と作業部会の設置が承認され、有識者懇談会の人選については、事務局に一任されることとなった。